

KVK 浄水器専用シングルレバー式混合栓 施工説明書

KM323 〈各仕様共通〉

施工業者様へ 施工前にこの施工説明書を必ずお読みのうえ、正しく施工してください。
この施工説明書と取扱説明書は必ずご使用になるお客様にお渡しください。

安全上のご注意

- ここに示した **警告** は誤った取扱いをすると、死亡または重傷に結びつく可能性があります。
- ここに示した **注意** は誤った取扱いをすると、傷害または物的損害に結びつく可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

この絵表示は、してはけない「禁止」の内容です この絵表示は、必ず実行していただく「強制」の内容です

警告	<p>湯水を逆に配管しないでください。</p> <p>禁止</p> <p>水を出そうとしても、湯が出てやけどをすることがあります。必ず給水管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確かめてください。</p>	<p>給湯温度は85℃より高温で使用しないでください。</p> <p>禁止</p> <p>85℃より高温でご使用になると、水栓の寿命が短くなり、破損して、やけどをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>加工及び接合、市販浄水器具の取り付け等の改造はしないでください。</p> <p>禁止</p> <p>器具が破損し、やけど・けがをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>
	<p>給湯に蒸気を使用しないでください。</p> <p>禁止</p> <p>器具が破損して、やけど、漏水のおそれがあります。</p>	<p>配管などの解氷のため解氷機をご使用の場合、水栓(給水・給湯管含む)には絶対に通電しないでください。</p> <p>禁止</p> <p>通電すると水栓や給水・給湯管が発熱し、破損して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>他所の水栓の使用等により水圧変動が起こり、湯の使用中に湯温が急上昇することがあります。</p> <p>禁止</p> <p>やけどのおそれがありますので、やけどのおそれのないところまで水圧変動をおさえた配管設備にしてください。</p>
注意	<p>器具に強い力や衝撃を与えないでください。</p> <p>禁止</p> <p>器具が破損し、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>配管接続部をテーパねじに接続しないでください。</p> <p>禁止</p> <p>テーパねじに接続すると、接続部がゆるんだり、パッキンが切れたりして、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>吐水口の浄水出口は清潔を保つ為、汚れた手でさわらないでください。</p> <p>禁止</p> <p>飲料水に適さない水が流出し、体調を損なうおそれがあります。</p>

注意	<p>めっき部品は、ぶつたり落としたりしないでください。また、鋭利な物や硬い物を当てないでください。</p> <p>禁止</p> <p>めっきの表面が割れて、けがをすることがあります。</p>	<p>めっきの表面が割れた場合は使用しないでください。</p> <p>けがをすることがありますので、ただちに使用を停止し、新しい部品に交換してください。</p>	<p>止水栓取り付け箇所や給水・給湯管との接続箇所は、点検口を設けるなど点検しやすい状態にしてください。</p> <p>禁止</p> <p>点検ができないと万一漏水発生時には発見が遅れて家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>
	<p>小型電気温水器(即湯器)等に給湯ホースを接続する際は、ステンフレキ管等を介してください。</p> <p>禁止</p> <p>高温の熱により給湯ホースの寿命が短くなり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>水道水および飲用可能な井戸水を使用してください。</p> <p>禁止</p> <p>水道水および飲用可能な井戸水以外の水を使用すると、故障や水漏れの原因になったり、体調を損なうおそれがあります。</p>	<p>凍結が予想される際は、少量の水を出しておくか、配管に布を巻くなどして、凍結を防止してください。</p> <p>禁止</p> <p>凍結を防止しないと凍結破損で漏水し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>

取り付け前に

- ① 使用水圧 (A = (給湯器の最低作動水圧) + (配管圧力損失))
 - (1) 瞬間給湯器との組み合わせ (設定条件 水温: 25℃ 給湯器温度調節: 高温 吐水温度: 42℃ ハンドル全開) (比例制御式) 最低必要水圧: A+50.0kPa (動水圧) 最高水圧: 0.75MPa (静水圧)
 - (2) 貯湯式給湯器との組み合わせ (給湯・給水圧力) 最低必要水圧: A+50.0kPa (動水圧) 最高水圧: 0.75MPa (静水圧)
- ② レバーハンドルは全開で使用してください。給湯器が着火しない場合があります。
- ③ 給水圧力は給湯圧力より高くするか、同圧になるようにしてください。
- ④ 給水圧力が0.3MPaから、0.75MPaまでは止水弁で流量調節してください。
- ⑤ 給水圧力が0.75MPaを超えるときは、市販の減圧弁で、0.2MPa程度に減圧してください。
- ⑥ 給湯器の給湯温度は、安全のため60℃給湯をおすすめします。
- ⑦ 給湯器からの配管は最短距離で配管し、配管には保温材を巻いてください。
- ⑧ 使用諸条件を加味して適正な能力の給湯器を選ばないと、適正な吐水量及び吐水温度が得られないことがあります。
- ⑨ 本製品は改造(加工及び接合、市販浄水器具の取り付け等)によるトラブルについては、保証の限りではありません。
- ⑩ 通水検査をしていますので器具内に水が残っている場合がありますが、製品には問題ありません。

取り付け完成図と各部の名称 / 寸法図 / 分解図

この分解図は製品説明図であり、サービス部品の単位を示すものではありません。

取り付け完成図と各部の名称

吐水口
混合栓レバーハンドル
本体
浄水レバーハンドル

寸法図

(267)
(230)
(272)
(215)
(70)
26
45
339
318
351
φ52
W35-16
取り付け穴
φ36~38
G1/2
G1/2

分解図

1	キャップ
2	ねじ
3	混合栓レバーハンドル
4	固定ナット
5	カートリッジ
6	スリップ板
7	吐水口
8	座金
9	ねじ
10	ボデー
11	ボンネットユニット
12	浄水レバーハンドル
13	ねじ
14	キャップ
15	シートパッキン
16	輪パッキン
17	スリップ板
18	フランジ
19	接続ジョイント
20	銅パイプ
21	ナット
22	テーパリング
23	座金
24	Oパッキン
25	逆止弁付きジョイント
26	逆止弁
27	パッキン
28	パッキン
29	ストレーナ
30	整流器キャップ

取り付け手順

1 給水管内の清掃
配管工事後、必ず給湯・給水管内を清掃してください。

2 止水栓(別売)の取り付け
給湯管と給水管の間隔は100mm程度で取り付けます。止水栓はストレーナ付きが最適です。

ストレーナ付き 止水栓
止水栓(別売)

3 本体の固定
取り付け穴周囲の汚れを取り除いた後、KVKマークが向かって左側を向くように本体をフランジで固定します。その際、本体に貼り付けてあるシートパッキン下面のセパレート紙をはがして固定してください。

【△注意】
・セパレート紙は必ずはがしてください。セパレート紙をはがさず固定した場合、本体が緩んだり、がたつきが発生し、漏水して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
・専用工具G26(別売)を使用して本体を保持してください。レバーハンドルや吐水口を持って締め付けますと破損し、漏水のおそれがありますので、これらは持たないでください。
・フランジの締め付けは、専用工具G11(別売)で行ってください。しっかり締め付けられていないと、本体が緩んだり、がたつきが発生し、漏水して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

専用工具G11(別売)

5 ページ

4-2 止水栓との接続

① 逆止弁付きジョイントを止水栓に仮固定した後、銅パイプの必要な長さを測り、仮固定していた逆止弁付きジョイントを止水栓からはずし、銅パイプを切断してください。このとき、ストレーナ付60mm程度(パイプの差し込み代20mm) 確保してください。

【△注意】
銅パイプの切断はパイプカッターをご使用ください。
銅パイプ切断および曲げ時に銅パイプストレート部には変形や傷などはないようにしてください。変形や傷により、漏水の原因となります。

② 逆止弁付きジョイントから図の部品をはずします。ナット、テーパリング、座金、Oパッキンの順に銅パイプにはめ込みます。

【△注意】
・部品をはずして銅パイプにはめ込んでください。部品をはずさない状態で銅パイプを逆止弁付きジョイントにはめ込むと、Oパッキンが切れ、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。
・部品は正しくはめ込んでください。特にテーパリング逆方向、Oパッキンがねじれた状態ですと、漏水の原因となります。

③ 逆止弁付きジョイントを止水栓からはずした状態で銅パイプにはめ込んでから、止水栓と接続します。

【△注意】
・接続は適切な工具(200mm程度のスパナ・モンキー等)で締め付けてください。締め付けトルクの目安は約2000N・cmです。(ナット締め後、工具で約1回転程度の締め付けです。)締め付け不足や締め付け過ぎると、漏水の原因となります。
・薄肉の接続管(ニップル等)には、逆止弁付きジョイントを接続しないでください。パッキンが切れ、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。
・止水栓がしっかり固定されていることを確認してください。固定されていないと銅パイプが抜け、漏水の原因となります。

④ 逆止弁付きジョイントが共回りしないように、別スパナで二面幅を固定しながらナットを締め付け、銅パイプと逆止弁付きジョイントを接続します。

【△注意】
接続は適切な工具(200mm程度のスパナ・モンキー等)で締め付けてください。締め付けトルクの目安は約2000N・cmです。(ナットが締めきって金当たりする程度の締め付けです。)締め付け不足や締め付け過ぎると、漏水の原因となります。

6 ページ

4-1 銅パイプの配管
止水栓と接続した場合、図1のように垂直部分が長くなるように取り付けます。

【△注意】
・給水・給湯パイプはR60以上は大きな曲げ半径になるように曲げてください。鋭角に曲げたり、混合栓根元で曲げたりしないでください。図2のような無理な配管はしないでください。配管の抜けや亀裂や破損の原因となり、漏水して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
・給水・給湯配管は動かないように固定してください。銅パイプが抜け、漏水して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

5 浄水器との接続
浄水器セットの施工説明書を参照してください。
(給水圧力0.35MPa以上0.75MPa未満の場合)
浄水器の給水ホース接続部に、減圧ブッシュ(同梱品)を取り付けてください。

減圧ブッシュ断面図
ふくらんだ方を下向きに。

取り付け後の点検と清掃

通水確認
【△注意】水栓を取り付け後、通水して湯水の出し止めを5~6回繰り返し、配管接続部及び水栓から水漏れがないことを確認してください。確認しないと、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

ストレーナ清掃のお願い
吐水口のストレーナにゴミ等がつかりますと、吐水量が減ったり、きれいに流れなくなったりしますので、施工後必ず清掃してください。
➡ 取扱説明書「日常のお手入れ・保守」参照

湯温・流量調節
混合栓レバーハンドルが正面を向いている位置で適温、全開吐水で適量になるように、止水弁で調節します。

7 ページ

故障かなと思ったら...
次のような現象は故障ではありません。修理を依頼される前に下記の表に従ってもう一度お確かめください。

現象	お調べいただくところ	処置	参照ページおよび項目
吐水量が少ない	止水弁は十分に開いていますか	止水弁を開ける	7ページ「湯温・流量調節」
	ストレーナにゴミ等がつかっていませんか	ストレーナを清掃する	取扱説明書5ページ「ストレーナの清掃方法」
	ガス給湯器と組合せてご使用の場合、能力切替式のものでは適正能力にセットされていますか	ガス給湯器の能力を適正能力にセットする	—
	ストレーナは凍っていませんか	ストレーナにぬるま湯をかける	—
	浄水カートリッジの寿命がきていませんか	浄水カートリッジを交換する	—
高温しか出ない	水側止水弁は十分に開いていますか	止水弁を開ける	7ページ「湯温・流量調節」
	湯側止水弁は十分に開いていますか	止水弁を開ける	7ページ「湯温・流量調節」
低温しか出ない	給湯器から十分な湯がきていますか	給湯器の設定温度・作動を確認する	—
	湯側・水側止水弁は十分に開いていますか	止水弁で流量を調節する	7ページ「湯温・流量調節」
温度調節がうまくできない	給湯器から十分な湯がきていますか	給湯器の設定温度・作動を確認する	—
	ストレーナにゴミ等がつかっていませんか	ストレーナを清掃する	取扱説明書5ページ「ストレーナの清掃方法」
吐水が飛び散る	ストレーナにゴミ等がつかっていませんか	ストレーナを清掃する	取扱説明書5ページ「ストレーナの清掃方法」
浄水の臭い、味がおかしい	浄水カートリッジの寿命がきていませんか	浄水カートリッジを交換する	—

【水栓本体内部のメンテナンスをする場合】
【△注意】・修理技術者以外の方は水栓本体内部を分解しないでください。故障や水漏れの原因となります。水栓本体内部のメンテナンスは、取付店・販売店またはKVK修理受付センターにご依頼ください。
・メンテナンスは、専用工具G26(別売)を使用して本体を保持しながら行ってください。吐水口やレバーハンドルを持ってはずしますと破損し、漏水のおそれがありますので、これらは持たないでください。

8 ページ